

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2016年11月30日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

81号

子どもたちはいたずらの天才。手作りの釣り竿で観察池の鯉を狙ったり、靴箱の奥からミミズやダンゴ虫がぞろぞろ出てきたり……。叱りながらも「よく考えたな」と感心し、「もっとやらせたいな」と思います。校庭の片隅だって地面の下だって、子どもたちの周りは冒険でいっぱい。未知の世界に触ったり、とび込んだりすることほどワクワクすることはありません。だいたい世の中には決まりやルールが多すぎます。「〇〇してはダメ」と言わなきゃならないたびに自己嫌悪に陥りながら、そんな大人のルールに対抗して知恵を絞る子どもたちにエールを送りたい。43年続けてきた「青空学校」は「いたずら学校」でもあります。「〇〇していいですか?」と許可を求める言葉は禁句です。人を傷つけたり嫌な気持ちにさせたりしない限り、いたずらは新しい発見、生きる輝き、成長のあかし、学びの出発点です。いたずらは子どものファンタジー! ……そんな思いを大事にしながら。(Y・S)

どの子にも等しく、 よりよい保育をめざすために

9月、板橋区内の認可保育園で午睡中の1歳の園児が亡くなるという悲しい事故がありました。区による検証結果はまだ出されていませんが、突きつけられたさまざまな課題に私たちはどう向きあえばいいのか、保育をとりまく情勢の一端をご報告します。

待機児童対策は、 量だけでなく質の確保を

来年度の保育園入所申込みの時期です。保育園見学の保護者の方々も、陽光会の産休・育休中の職員も「保育園に入れなかったら職場復帰できない」と切実な声を上げています。小さい子どもを連れて必死に「保活」をしなければならぬ時代はいつまで続くのでしょうか。

等のみ希望・求職活動休止者の合計)の数をいれると東京都全体で待機児童数は2万7185人(板橋区773人、練馬区1089人)となります(厚労省発表数字)。保育所は、子どもの心身の発達を図ることを目的として「入所する子どもの最善の利益を考慮する」児童福祉施設であり、「保育の環境を通じて、専門知識をもった職員が家庭と緊密に連携して養護と教育を行うもの」です(保育所保育指針より)。

保育政策は 誰もが安心できるものに

なぜ、このように待機児問題が深刻になったのか。「ポストの数ほど保育所」の運動によってみれば革新都政(1967~1979年)時代に保育所が多つくられた後、国も都も認可保育園増設に消極的でした。増加する待機児解消のため、2008年、国の基金、都の補助金制度が設けられ、ようやく認可保育園の増設が進みましたが、一方で国が公立保育園の運営費・整備費を「一般財源化」し、補助金をなくしたことにより都内の公立保育園数はこの12年間で1割以上減らされました。今、国の子どもへの予算を増やして、自治体の責任で、誰もが安心してできる保育所

をつくる根本的な政策が必要です。面積基準(保育環境)・保育士配置基準などを「規制緩和」することで、「量」を確保しようとする動きを危惧し、反対します。

よりよい保育のために、 事故の検証はしっかりと

陽光会は、公立保育園の民営化には反対の立場ですが、現実的に「民営化」施策が進むなかで、練馬区立北町保育園と桜台第二保育園の運営業務を受託し、「公立保育園への信頼も引き継ぐ」覚悟と同時に「陽光会の理念」を確かめながら、この間努力を続けています。

待機児解消のために、社会福祉法人陽光会が「保育園を新しくつくる」等の事業拡大を行うことは、簡単にできることはありません。土地・建設資金の確保の難しさはもちろんなこと、新しい職員を迎え入れ、切磋琢磨しあう職員集団をもって、子どもの安全と発達を保障する保育をつくりあげていくには相応の期間が必要であり、現時点で直接的に待機児解消に貢献することはできません。

社会福祉法人陽光会◎近況

●陽光保育園●

陽光保育園では毎年父母の会主催で「歌いまくりの会を開催しています。0歳児~5歳児の親子と職員が参加し、保育のなかで歌っている歌や楽しんでる手遊びを伝えます。お父さんお母さん以外にお兄ちゃんお姉ちゃんも参加するので、参加者みんなで歌えば声もはずむ
活気溢れる歌声と賑やかな雰囲気の中で初参加の方でも入りやすい楽しい空間です。席は決まらず、好きなところで自分に合った形で参加できるのもこの会の魅力です。1時間があっという間に終わってしまい、子どもたちは「もう終わり!?!」と名残惜しそう。素敵な時間を共有できる「歌いまくりの会」をこれからも続けてほしいと思います。



陽光保育園では毎年父母の会主催で「歌いまくりの会を開催しています。0歳児~5歳児の親子と職員が参加し、保育のなかで歌っている歌や楽しんでる手遊びを伝えます。お父さんお母さん以外にお兄ちゃんお姉ちゃんも参加するので、参加者みんなで歌えば声もはずむ

●桜台第二保育園●

10月25日、いるか(3歳児)、とびうお(4歳児)、くじら(5歳児)のたて割り三兄弟で、城北公園まで、おにぎり遠足に出かけました。たて割りグループに分かれ、別々のコースを歩いて中央グラウンドに集合。この日は兄弟で力を合わせ、「グループ対抗ハートクッション運び」や「パン食い競争」ならぬ「おやつ取り競争」で盛り上がりしました。
昼食はお母さんの愛情がたっぷり詰まった「おかず入りおにぎり」です。中から唐揚げや卵焼き、ウインナー、昆布などさまざまなおかずが出てきて子どもたちは大喜び。楽しくおいしくいただきました。



広々とした公園で、手足も体も思いきりのほして

●ある日のスナップより



着替えの箱に背伸びして、「ぼくだつてどくよ」(陽光保育園0歳児)

- ごあんない
- 陽光保育園
●荒馬座ミニ公演
日時 2月7日(火) 10時
 - 陽光保育園卒園式
日時 3月19日(祝) 9時
 - *会場はいつでも陽光保育園ホールです。
 - 北町保育園
●共育講座 親子で「ふれあい遊び」& パネルシアター(仮称)
日時 2月4日(土) 9時30分
 - 講師 松家まきこさん
 - 荒馬座ミニ公演
日時 2月15日(水) 9時50分
 - 北町保育園卒園式
日時 3月18日(土) 9時30分
 - *会場はいつでも北町保育園ホールです。
 - 桜台第二保育園
●桜台第二保育園卒園式
日時 3月16日(水) 9時30分
 - 会場 桜台第二保育園ホール
 - *保育園の行事に参加ご希望の方は、いずれの保育園も、お手数ですが事前にご連絡ください。
 - 板橋第十小学校あいキッズ
●「みんなでチャレンジ、あそびとリズム」
今年もただ「じゅんと一緒に」
日時 12月26日(月) 14時
 - あいキッズ工作&あそびフェスティバル
日時 1月25日(水) 15時
 - *会場はいつでも板橋第十小学校あいキッズ

●ある日のスナップより



日射しがいっぱいの0歳児の部屋。暖かい日だまりで絵本の読み聞かせに夢中の子どもたち(陽光保育園0歳児)

●子どもの世界

～陽光保育園&板橋小あいキッズ～

0歳児 — 電車の絵にバイバイ!

電車の絵がたくさん描かれているハンカチを、保育士が「ブーン」と言って床の上をすべらすように引っ張りました。すると、0歳児クラスの子どもたちが急にバイバイと手を振りはじめました。電車が走っているように見えたのかな。何気ない生活のひとつコマ。ほのぼのとした可愛い瞬間でした。

1歳児 — 朝ドラのテーマ曲

公園からの帰り道、Aちゃんが朝ドラのテーマ曲を突然歌いだし、それがとっても上手なのでびっくり!「人生は紙ヒコーキ……♪」子どもたちみんなが笑顔に。大人はこのタイミングで大笑いでした。

? 年生 — 最速のネズミ

壁に貼られた、子どもたちの描いた絵やぬり絵のなかに、誰が描いたのかネズミが走っているイラストがありました。「時速1000kmで走るネズミ」とタイトルが書かれています。おもしろい発想ですね。ちなみにそのネズミの脚、車輪のように回転していました。

●北町保育園●



かぶりつき(?)で電車に入る

ひよこ組(0歳児)は、4月に入所して半年、対面式のバギーに乗ってお散歩に行くのが楽しくなりました。10月12日、いいお天気だったので「少し遠いけど思いきって行ってみよう!」と、バギーに乗って20分、はじめて「電車の見える公園」に行ってきた!

間近に見る電車に大興奮して「かんかん・みる」を連発したり、驚いたような嬉しいような感じで、大きな口を開けて凝視していました。見るものすべてに興味津々のときです。

これからも、いろんなものを見て、感じて、成長して欲しいと思います。

●陽光保育園●

親子でいっしょにあそびましょう

今年度はあと4回です。
12月20日(火) 1月17日(火)
2月21日(火) 3月7日(火)
*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。詳しくは下記までお問合せください。
☎03-3956-1068

●板橋小あいキッズ●

10月になって急に寒さが増し、季節が秋から冬に移り変わるうとしてるのを感じるころ、あいキッズの子どもたちの服装も、すっかり半袖から長袖に替わりました。あいキッズでは月末のハロウィンに向けて塗り絵が盛りだくさんです。外遊びでは一輪車が盛り上がり、男の子も夢中です。



子どもたちがつくった飾り付けで彩られたハロウィンムード満点のあいキッズのクラブ室

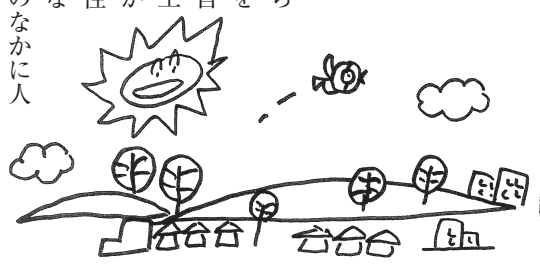
すくすく子育て

1

イラスト たいじゅん

「あそび」が育てる 子どものチカラ

子どもに関わる仕事をしている方や子どもの親はよく「どんな子どもに育ってほしいか」と話します。それは、実はちよつと違って、どんな子ども、ではなく、どんなおとなになってほしいか、どんな人生を歩んでほしいか。そのためにはどんな子ども時代を過ごしてほしいのか。と、考えるのが正しいのだと私は思います。そして、子ども時代に育つ力、それは遊びのなかで育つのだと思います。



楽しくなくなったら自分たちでルールを変えてゆきます。自分たちで、考え、工夫し、話し合うなかで、自発性、協調性や交渉力、達成感などを得ます。遊びのなか人間として生きてゆくのに必要なスキルを身につける重要なことがたくさん詰まっています。また、伝承遊びはすべて「身体を開く」動作が入っています。開いた身体はコミュニケーションしやすい身体です。

名前のない遊びの醍醐味

自発的な遊びが子どもを育てます。ところがいま、子どもたちの暮らしには、自由

ワン・ツー・スリー のびのび体操 1・2・3

月一回

赤ちゃんからリズムへ
東京・陽光保育園 小内康寛

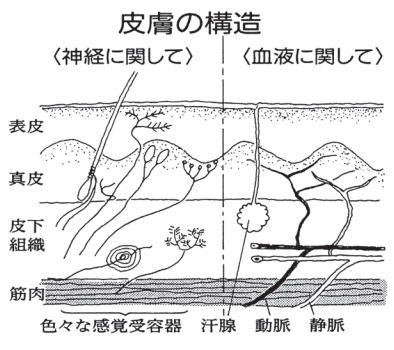
第3回 マッサージの効果

★準備段階は脚から…

赤ちゃん体操を始めるとき、準備段階のマッサージは、まず脚から始めます。指で肌を軽くつまむ「もみもみ」や、左右にさする「なでなで」、円形を描く「くりくり」など、肌表面より少し深く作用させる気持ちで刺激しましょう。脚は、体全体の中でも筋肉がたくさんある場所です。その筋肉を動かすことによって血管を刺激し、血行をよくします。そうすると、赤ちゃんの頭にもさわやかな血液が流れ、「やっぴいよ」という準備ができるのです。お母さんの方も「さあ、それでは始めますよ」。これが、体と心の共有関係なのです。

★マッサージの効果

右の図をみてください。皮膚表面には、たくさん刺さる受容器（受容器）や、血管、リンパ管などがあります。西洋式のマッサージは、一つは血液、血管に働きかけます。皮膚の表面には毛細血管が走っていますが、ここをなでたり、もんだりし、血行をよ



くするのです。すると毛細血管が刺激されてひろがり、熱を放散するので、暑いときにマッサージすると、体の熱を下げる効果があります。赤ちゃんのお昼寝のときなど効果的ですね。眠りに入るためには、脳が冷えないといけません。もう一つは、筋肉に働きかける方法です。筋肉運動は血行をよくし、筋肉の中の疲労物質を静脈やリンパ管に流し、筋肉をリフレッシュさせます。マッサージの後さわやかな気分になるのは、そんな理由もあるのです。

血行をよくし 疲労物質をとりのぞく

【訂正】前号、第2回は『新婦人しんぶん』2000年5月25日号掲載 *『新婦人しんぶん』2000年6月22日号掲載

弟が、そして母が……

—東京大空襲を知っていますか(1)—



利光はる子



ただじゅん(多田純也)
上演を主とする「ただじゅん企画」と表現あそびを主とする「風光舎」を主宰。上演活動と、表現あそびの活動を保育園、児童館、老人ホームなどを中心に展開中。また手づくりおもちゃ、あそびうたなど、ひろく子どものあそびと表現の研究実践をすすめる。保育士や教師向け講座、学生や子育て支援者育成講座の講師活動もひろげている。
全国児童青少年演劇協議会加盟 / 芸術教育研究所客員研究員・講師 / NPO 日本グッドトイ委員会理事ほか

いつ思い出しても悲しく、憤りを禁じえない記憶が鮮烈によみがえる。それは1945(昭和20)年3月9日夜半から10日早曉にかけての、あの東京大空襲です。何十年経ってもつい昨日のこのように胸の圧迫に苦しみ、こらえるのにしばらく時間がかかるのは毎回のことだ。私が住んでいたのは本所区(現墨田区南部)千歳町。薪炭商を営む父と母、12歳の弟・宗治と私の、貧しくも楽しい平和な4人家族だった。19歳だった私は、翌日の栄養学の試験に向け、家人の寝ついた夜10時頃から机に向かった。サイレンの音が鳴り響いたのは、それから30分ほど経ったときだった。急いで明かりを消し、大事な参考書を暗闇の中でリュックにしまい、家の横手の防空壕に入った。防空壕にはすでに数人が入っていた。まもなく爆音が響いたかと思うと、防空頭巾の上にかぶった鉄兜の上に砂利が落ちてきた。「こんなところには危ない!」と私は防空壕を飛び出し、家に飛び込むと、母は悠然と布団をたたんでいた。「人間は一度だけ死ぬのよ。落ち着きなさい」と言う母。武家の家風に育った母らしかった。私たち親子は、電車通りを渡った先にある中和小学校を落ち合う場所と決めていた。外は、四方の空が真っ赤で不気味だった。私のリュックを背負った弟と、先祖の過去帳と曼荼羅を懐に入れてくりつけた母は、先に家を出た。「姉ちゃん、先に行ってるね」とニッと笑って振り向いた弟。ゴーゴーという爆音に空を見上げると、B29の大編隊だった。ひとつの編隊が去るとまた来るといった波状攻撃。一つずつ落ちてきた黒い箱のようなものが焼夷弾だったのか。そのうち火の粉が降り始め、ホースで火を消していた父も断念し、少しの荷物を積んでいたリヤカーを引き出して一緒に逃げだした。しかし、火が、炎が渦巻いて、前に進めない。荷物をあきらめ、1枚の布団を引き出して貯水桶にひたし、ポタポタ水のたれる布団を鉄兜の上からすっぽりかぶった。ふと気がつくと、父の姿がない。中和小学校までわずか20~30メートルのはずなのに、逃げてきた人々の波で先が見えない。紅蓮の炎を巻き上げながら崩れ落ちる2階家に、「ギャッ」と断末魔の叫び。親を呼ぶ子どもの声、半狂乱で子の名を叫ぶ声。焼けたトタンが中空を飛び交い、火のついた布団が舞い上がり落ちてくる。水布団もバリバリになり火が付き始めたので仕方なく手離す。左足が痛むが、まぶたが腫れてよく見えない。まつ毛などとうに焦げてなくなり、眉毛もチリチリしている。見えにくくなった目でやると見ると、革靴がくすぶっていた。仕方なく脱ぎ捨てたが、靴下はみる間になくなり、素足で足を引かずりながら夢中で歩いた。とくに校門まで来ているはずなのに、まったく方向がわからない。ふと見ると、トタンで囲んだ中に輪になってトタンをかぶって座り込んでいる人たちがいた。私は急いでその輪の中にもぐりこんだ。すでに左足の感覚はなくなっていた。少しホッとしたとき、輪の中のおばさんの声が耳に入った。「お前たちがぼやぼやしているから、こんな人が入ってきたんだ」と怒っていた。私は悲しくなり、出ていこうとしたら、おじさんが「何を言うんだ、1人助かるも2人助かるも同じだ。出ていってほだめだ」と言ってくれた。そのときもしそこを出ていたら、現在の私はいなかっただろう。(続く) (板橋区在住/89歳)

※利光はる子さんの手記をまとめ、構成させていただきました。(編集部)

子どもの世界

~板十小あいキッズ~

2年生 — 涙声のダジャレ

2年生の男子K君が、体育着をなくしたと泣きながらやってきました。体育着は落とし物として届いていたので、職員は、K君を明るい気分させようと、「ダジャレを言ったら返してあげる」と冗談っぽく言いました。K君は震える涙声で、「ネコが寝転ぶ」と一言。純粋ですね。

? 年生 — お宝発見!

庭の土を掘っていたR君。何やら固いものがシャベルにぶつかりました。指導員「なんだろうね?」 R君「お宝かもしれない」 指導員「お宝だったら山分けしよう」 R君「いいよ。金銀財宝ざっくざく〜♪(と歌う)。僕はお宝見つけたらお母さんにはあげずに僕の部屋に隠しておくんだ」 ヒソヒソ声で話す会話が何とも楽しかったひとコマ。お宝は何だかわからない陶器のカケラでした(笑)。



「子どもには時間が必要」

先日、息子(次男)が通う北町保育園で運動会がありました。天気予報では午後から雨。不運なことに開始直後から雨が降り始め、プログラムの一部変更がありました。保育園のスタッフの方々が保護者の皆さまのご協力のおかげで、無事に終えることができました。その後、天気が回復するという何とも皮肉な結果になってしまいました。保育園に雨が当たらないように、保育士さんたちがびしょ濡れになりながら一生懸命頑張ってくださったのが印象的でした。本当にありがとうございました。

さて、息子ですが、実は運動会本番の数日前まで、きりん組(5歳児クラス)のメインの出し物である「竹馬」が出来ませんでした。1歩進んでは降り、2歩進んでは降り、の繰り返し。お友だちはどんどん出来るようになっていくなか、明らかに遅れていました。プライドの高い息子は失敗を恐れ、すぐに諦めてしまい、家でも竹馬の話を聞くと無視し、不機嫌になるようになりました。励ましても慰めても、ますます般に閉じこもってしまいました。週末に保育園から竹馬を借りて練習しようか……。いつしかそんな話し合いが家庭で出るようになっていました。「もっと保育園で練習すればいいのに」 言うのは簡単ですが、葛藤している本人が一番辛かったと思います。連絡帳に、「泣いてもいいから厳しくやってください」と書いて、まったくの「6歩、歩きました」という報告を受けました。聞けば、決して厳しくしたわけではなく、竹馬で歩きたしたお友だちのあとを追うように突然前に進んだそうです。何かをつかんだその日から、進める歩数はどんどん増え、毎日「今日は〇〇歩、歩けたよ」という報告が日課になりました。本番前の担任の先生からの園児へのインタビューでは「お兄ちゃんに竹馬を見てもらいたい」と発言していたことに家族はざわつきました。以前、長男(長男も北町保育園)がお世話になった小内先生が「とにかく子どもには時間が必要なんだ。時間をかけてあげれば必ず出来るようになるんだ」と言っていた。担任の先生が教えてくれました。あの子の言葉をしみじみと感じた運動会でした。運動会のおと「竹馬頑張ったね」と声をかけると、息子の「来年も竹馬頑張る」という言葉。来年は小学生ですよ? (北町保育園5歳児クラス・且陽の父 椎名剣二郎)